

# スペイン

様々な文化が混ざり合う

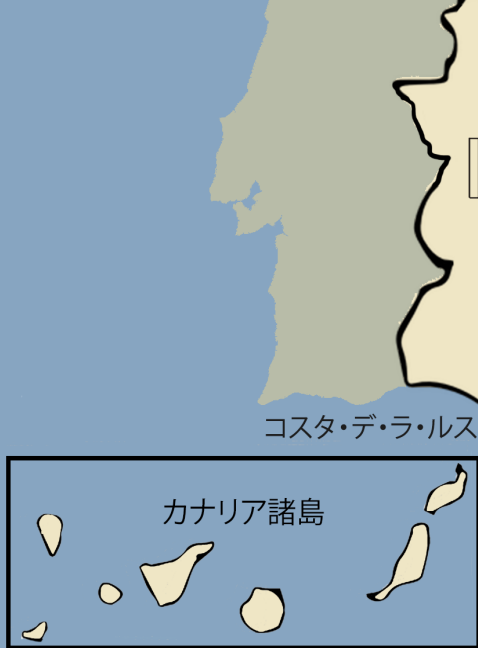


[www.spain.info](http://www.spain.info)



# カンタブリア海

大西洋



産業観光商務省  
出版元: © Turespaña  
作成: Lionbridge  
NIPO: 086-17-059-4

無料提供版

このパンフレットは細心の注意を払って制作いたしましたが、もし誤りがございましたら、[brochures@tourspain.es](mailto:brochures@tourspain.es)までメールでお知らせください。今後の改善の参考にさせていただきます。

表紙: コルドバのメスキータ  
写真: Botond Horváth/123rf.com  
裏表紙: カルモナ、セビージャ

## 目次

はじめに	3
過去への旅	4
先史時代、 スペインの原点に酔いしれる	4
フェニキア人と カルタゴ人	10
ローマ時代のヒスパニア	11
西ゴート文化	19
3つの文化が交差するスペイン	20
アンダルス芸術	20
キリスト教徒	24
セファルディム文化	28





はじめに

▲ アルハンブラ宮殿  
グラナダ

スペインは、長い歴史の中で多様な人種、文化、宗教が共存してきた国です。スペインの歴史的な文化遺産を巡れば、その多文化な横顔が見えてきます。

例えば、人類の進化を理解するのに、**先史時代の遺跡**はその鍵となる場所です。**アタプエルカ遺跡**、**アルタミラの洞窟**、**国立考古学博物館**などがあります。

また、スペインの文化には様々な古代文明が深い足跡を残しています。**セゴビアの水道橋**や**グラナダのアルハンブラ宮殿**などが、そういった古代文明の象徴的な場所です。

スペインはこれらの文化遺産を保存す

スペインの街を散策し、ケルト、ローマ、西ゴート族、モサラベ、イスラムやユダヤの遺産をご覧ください。

るよう努めてきました。豊かな文化遺産はその努力の成果です。国内には素晴らしい遺跡、百以上の専門的な文化施設や博物館、15のユネスコの世界遺産に登録された都市があります。ぜひ歴史的な場所を実際に歩き見て、歴史と文化を肌で感じてください。過去を知ることが、それを守ることに繋がります。

スペインの壮大な歴史遺産、芸術遺産は多様な文化の影響で変化に富んでいます。ぜひじかに触れてみてください。



## 過去への旅

スペインの歴史遺産や文化遺産を巡ると、まるでタイムマシンに乗って旅しているような気持ちになります。ここには、いろいろな文明が根付いているからです。先史時代の住居、フェニキア人の船、ローマ時代の城壁など、ぜひさまざまな文化遺産を訪ね、散策してみましょう。



人類進化博物館  
ブルゴス

## 先史時代、 スペインの原点に酔いしれる

この国の祖先の歴史には興味深いものがあります。遠い過去の時代に思いを馳せ、世界で最も重要な古代遺跡を訪ねてみましょう。

### アタプエルカ

アタプエルカ山脈(ブルゴス)で一日考古学者の気持ちを味わってみませんか：約百万年前の人類の化石が発見された洞窟へのエキサイティングな旅へ出かけてみましょう。

この地域へ行くには、まずは遺跡案内センター(CAYAC)へお越してください。このセンターは見学者用の集合場所で

あり、ユネスコの世界遺産に登録されている重要な遺跡へのバスはここから発着します。また、このセンターでは、常設展「自然と文化の遺産、アタプエルカ山脈」のほか、特別展示も行っています。

専門ガイドと一緒に、最も重要な3か所の遺跡を訪問できます。その遺跡と



はラ・シマ・デル・エレファンテ、ラ・ガレリア、ラ・グラン・ドリーナです。これらの洞窟では多くのゾウとホラアナグマの骨も発掘されたのですが、何にもまして重要なのは、ここで発見された人骨がヒトの新しい種の発見につながったことです。そのヒト属の新種は、ホモ・アンテセッサと命名されています。

古代の人類の生活がどんなものだったのか理解を深めるには、アタプエルカの町の郊外にある**実験的考古学センター (CAREX)**への訪問がおすすめです。ここでは、子どもも大人も実験をしながら楽しみ、学習するための施設です。数千年前に使われたのと同じ技術を使って火をつけたり、道具を作ったりしてみましょう。わくわくするような体験になること、間違いなしです。

ブルゴス県都のブルゴスにある現代的な**人類進化博物館 (MEH)**では、アタプエルカで発掘された化石を見ることができます。博物館の建築はスペインの建築家ファン・ナバーロ・バルデヴェーグによるものです。この建築の前衛的なデザインが、新種発見の価値と重要性をおのずと物語るでしょう。博物館内ではそのリサーチと学説を導き出すのに使われた知識と技術についても学べます。たくさんのアクティビティがありますが、中でもおすすめなのがホミニドス (Homínidos、人類の意) ギャラリーです。ここでは私たちの祖先のうちで最も代表的な10の種の完全な複製が展示されています。また、人類進化論の発達について学べたり、巨大な脳に入ったりすることもできます。展示にはAR (拡張現実)、インタラクティブパネル、3Dビデオなどの新しいテクノロジーがふんだんに使用されており、家族みんなで楽しめます。

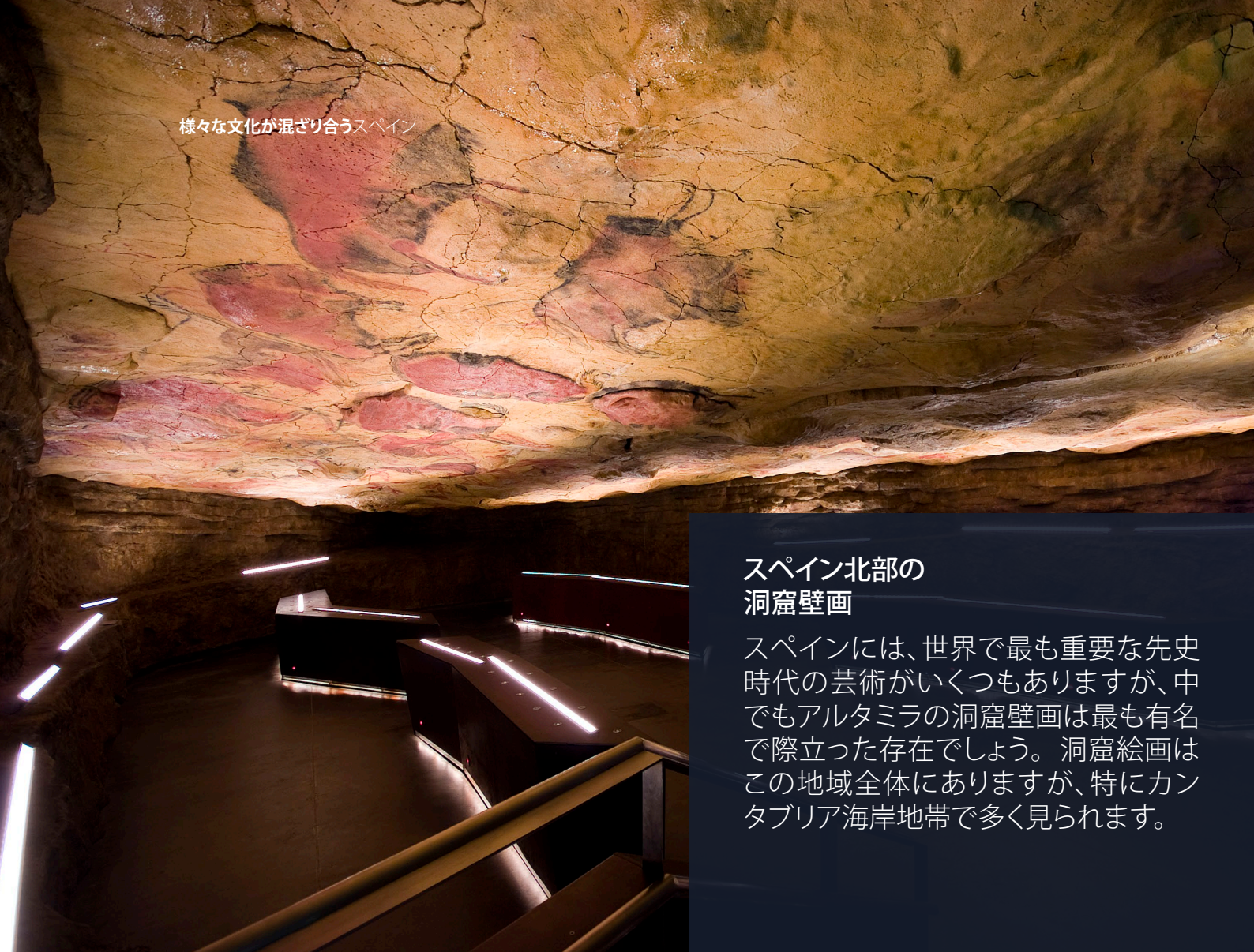


▲ 人類進化博物館  
ブルゴス

遺跡および実験的考古学センター (CAREX) を見学するには、事前のご予約が必要です。人類進化博物館 (MEH) への入場料およびバス料金が含まれた3か所の遺跡へのガイド付きツアーに申し込むというのも、ひとつの方法です。

① [www.atapuerca.org](http://www.atapuerca.org)  
[www.museoevolucionhumana.com](http://www.museoevolucionhumana.com)





## スペイン北部の 洞窟壁画

スペインには、世界で最も重要な先史時代の芸術がいくつもありますが、中でもアルタミラの洞窟壁画は最も有名で際立った存在でしょう。洞窟絵画はこの地域全体にありますが、特にカンタブリア海岸地帯で多く見られます。

▲ ネオクエバ:アルタミラ国立博物館・研究センター  
サンティジャーナ・デル・マル、カンタブリア州

19世紀末に発見されたサンティジャーナ・デル・マル(カンタブリア)の**アルタミラの洞窟**は、1985年にユネスコの世界遺産に登録されました。壁や天井には、野牛、馬、鹿などの**260以上の絵**が保存されています。壁画界の「システーナ礼拝堂」と呼ばれています。

オリジナルの状態を維持するため細心の注意が払われており、洞窟内部は非公開となっています。しかし、**アルタミラ国立博物館、調査センター**を訪れば、ネオクエバ(新しい洞窟の意)があります。これは1万8千年前の洞窟の正確な立体レプリカです。

① [www.culturaydeporte.gob.es/mnaltamira](http://www.culturaydeporte.gob.es/mnaltamira)

スペイン北部には、他にも洞窟美術が発見された場所が17カ所あり、それぞれ世界遺産に登録されています。チュフィン洞窟、エル・カステージョ洞窟、コバラナス洞窟は、そのほんの一例です。

② [cuevas.culturadecantabria.com](http://cuevas.culturadecantabria.com)

また、アストゥリアス県にも旧石器時代の驚くべき遺跡があり、中でもユネスコの世界遺産に登録されている**ティト・ブステージョの洞窟**が有名です。こ



の洞窟は3月から10月まで一般公開されていますが、事前のご予約が必要です。ティト・ブスティージョの洞窟は美しい漁村リバデセジャにあります。この地域一帯が先史時代の洞窟がたくさんある楽園です。ティト・ブスティージョ洞窟壁画センターもあります。

① [www.centrotitobustillo.com](http://www.centrotitobustillo.com)

### 巨石建造物

ヨーロッパで最も重要な巨石建造物の大きさをどうぞご覧あれ。

アンダルシア州マラガ県にはアンテケラのドルメン遺跡群があります。先史時代でも、最も初期の形式で作られた建造物です。アンテケラ市にあるこの遺跡群はメンガ、ビエラ、エル・ロメラルの3つの支石墓(巨大墓の一種)からなり、これらはかつて儀式や葬儀のた

めに使用されていました。数トンもの重さの石の構造物は、壮大な迫力に満ちています。

また、ロス・ミジャーレス(アルメリア県サンタ・フェ・デ・モンドゥハル)遺跡は

2016年にアンテケラのドルメンは、ラ・ペニャ・デ・ロス・エナモラードス、エル・トルカルと共に、ユネスコの世界遺産に認定に認定されました。

銅器時代の最も重要な遺跡のひとつです。戦略的に要となる位置にあったこの遺跡は、4重の同心円の城壁、巨大な墓地、複数の岩で構成されており、すべての往来を管理していました。





無料アプリのMillares Virtualでは、AR(拡張現実)による没入体験サービスによる過去を覗き見ることができます。

メノルカ島のタラヨットも、その独特の外観が際立っています。タラヨットは巨石を空積み(接合材を使わない積み上げ法)した巨大なモニュメントです。タウラは祭祀の場として使用され、ナベタは中型の石で造られた集団埋葬所でした。これらを見学するには、タラヨットの集落があったトレプコ(マオン)、トレ・デン・ガルメス(アライオール)、トゥドンスのナベタ、トレレンカダのタウラ(シウタデラ)がおすすめです。

隣にあるマジョルカ島にもカポコルブ・ベル(リュクマジョール)遺跡のように、ドルメンやタラヨットがあります。これらは先史時代の芸術の結晶です。

### イベリア半島の地中海沿岸の岩絵

カタルーニャ州、アンダルシア州、ムルシア州、バレンシア州、アラゴン州、カスティーリャ＝ラ・マンチャ州にまたがる地域にはヨーロッパ最大の岩壁画群があり、1998年には世界遺産に登録されました。750か所以上に残るこれらの場所では、数々の壁画や刻画を見学できます。

▼ ドラック洞窟  
マジョルカ







地中海にあるバレアレス諸島には、魔法と  
神秘に包まれた、巨石建造物が驚くほどた  
くさんあります。





## フェニキア人と カルタゴ人

紀元前千年頃、東地中海で漁業や交易をおこなっていたフェニキア人がイベリア半島に進出、沿岸に居住地を建設しました。現在アンダルシアと呼ばれている場所です。

この頃建設されたのが、マラカ(マラガ)、セシ(グラナダ県アルムニェカール)、アブデラ(アルメリア県アドラ)、ガディール(カディス)などの都市で、これらの町にある港は交易上、重要な役割を果たしていました。カディスにある考古学博物館を見ると、フェニキア人にとってこれらの港がいかに大事だったかがわかります。この博物館では、カディスの女性(Dama de Cádiz)と呼ばれる、大理石でできた素晴らしい石棺が保存されています。

▼ カディスのダマ  
カディス博物館



フェニキア人による建築のうち最も重要なのは、ヨーロッパ最古の遺跡のひとつであるガディール(カディスのフェニキア名)の遺跡でしょう。この遺跡には日常生活で使用された道具のコレクションも展示されています。この遺跡は現在博物館として活用されており、フェニキア人の後カディスを支配したローマ帝国の建造物も保存されています。例えば、魚の塩漬けの準備段階で使用された水槽がローマ時代のものです。

ローマ時代、またその他の時代の歴史的価値の高い道具類は国立考古学博物館(マドリッド)、アルメリア博物館、国立水中考古学博物館(ARQVA)(ムルシア県カルタヘナ)に展示されています。

古代都市国家であったカルタゴはスペインに進出し、その名だたる海軍や交易の拠点地として、ヒスパニアに植民地を建設しました。植民地は特にバレアレス諸島やレバンテ沿岸に多かったようです。紀元前3世紀、現在のカルタヘナ(ムルシア)にカルト・ハダシュト(ローマ時代にはその名をカルタゴ・ノヴァと変更)が造られ、その繁栄した大都市の城壁の一部は現在も残存しています。カルタヘナ・カルタゴ城壁観光センターを訪れると詳しい情報が得られるはずです。

スペインで現存するカルタゴ人の手工芸品の大半は、パイグ・デス・モリンス遺跡から出土したものです。カルタゴ人は、かつてここに重要な海軍基地を有していました。この遺跡は、イビサ島(バレアレス諸島)にあります。この島にある博物館を見学するなら、演劇形式のガイドツアーに参加してみましょう。古代の葬儀について詳しく知ることができるでしょう。

① [www.museosdeandalucia.es](http://www.museosdeandalucia.es)  
[www.mecd.gob.es/mnarqua](http://www.mecd.gob.es/mnarqua)





## ローマ時代のヒスパニア

例えば、何世紀もの歴史がある道や橋の上を歩き、古代の円形劇場で古典劇を観劇。あるいはアルメディニージャ（コルドバ）でローマ時代の宴を再現したイベントへ参加してみませんか。スペインには、古代ローマに関する建築やイベントが数えきれないほどあります。

▲ セゴビアの水道橋

### セゴビアの水道橋

2世紀に建設されたセゴビアの水道橋は、壮大な技術の結晶です。グアダラマ山脈から水を集め、それを各都市に分配するために建設されました。

セゴビアの城壁の一部であるポステイゴ・デ・コンスエロの階段の上まで昇ってみましょう。1985年にユネスコの世界遺産に登録された歴史的遺産である街の、またとない景色を眺めるのにうってつけです。

① [www.turismodesegovia.com](http://www.turismodesegovia.com)

### メリダ

現在、メリダ（エクストレマドゥーラ）と呼ばれるエメリタ・アウグスタは、ローマ時代のルシタニア属州の首都でした。ローマ帝国の中でも最も栄えた都市のひとつだったのです。この街はユネスコの世界遺産に登録されており、その美は、劇場と円形劇場に集約されていると言えるでしょう。毎年夏になると、メリダ国際古典演劇祭が開催され、両劇場とも観劇に訪れる人々で賑わいます。





▲ 古代ローマ劇場  
メリダ

スペイン人建築家ラファエル・モネオの建築である**国立ローマ博物館**はメリダ訪問の締めくくりにおすすめです。この博物館が所蔵する壮大なローマ時代の彫像、胸像、モザイクのコレクションには当時の人々の生活が映し出されています。

6月にメリダを訪れるなら、ぜひ**エメリータ・ルブディカ**と呼ばれる、歴史を再現した祭りに参加してみましょう。地元の人々はローマ時代の衣装に身を包み、さまざまな文化的なイベントが開催されます。参加者はローマ時代へ戻ったような気持ちになるでしょう。

① [www.turismomerida.org](http://www.turismomerida.org)

### アランへの古代ローマ浴場

メリダから数キロの所にある、**アランヘ**（エクストレマドゥーラ州バダホス県）の浴場で、ローマ時代のヒスパニアの貴族の気分を味わってみませんか。ローマ起源のアクアエとして知られる温泉があります。1993年にユネスコの世界遺産に登録されたこの温泉には、半球状のドームを備えた2つの円形の部屋が現在も保存されています。







▲ 国立古代ローマ美術館  
メリダ

## アルカンタラ橋

**アルカンタラ** (エクストレマドゥーラ州カセレス県) の町の近くのタグス川にかかっている壮大な橋です。橋の横にあるローマ時代のラテン語の碑文に、「この橋は永遠に続く」と書かれています。この壮大な土木技術の結晶は、2世紀以降何度かの修復を経て、完全な状態で残っています。中央の柱には、トロイアの王に捧げられた壮大な凱旋門があります。

## ラス・メドゥラス

**エル・ビエルソ** の村 (カスティリャ・イ・レオン州レオン県) では、ローマ帝国最大の金鉱山だったラス・メドゥラスがあります。この場所はユネスコの世界遺産に登録されています。ここの**考古学室**にはその時代の金鉱の鍵となるものが展示されています。あるいは、屹立する赤い岩山が点在する景色を眺めたり、洞窟や地下道の迷路の一部を横断するガイドツアーに参加するのもおすすめです。



ラス・メドゥラス  
レオン



## 国立考古学博物館

マドリードにある国立考古学博物館(MAN)は、世界でも類を見ない出土品のコレクションを所蔵しています。先史時代から現代まで、地中海の様々な文化の道具や芸術作品を常設展示しています。

ビデオ、3Dによる再建、情報パネル、模型を通じ、ローマ人がどのようにイベリア半島に勢力を広めたかがわかります。また、土地によって文化がどのように違う発展を遂げたかも学ぶことができます。ローマ時代のヒスパニアの村と建造物のモザイクのコレクションは特に興味深い内容です。

MANでは、紀元前5世紀、紀元前4世紀のイベリア文化の宝石であるエルチェの貴婦人像を見ることが出来ます。これは、非常に完璧な表情を持つ、美しい衣装の女性の胸像です。

通路やホールには、ギリシャ文化の食器、西ゴート族の宝物、石棺やエジプト美術の重要なコレクションがあります。

① [www.man.es](http://www.man.es)

## ヌマンシア考古学遺跡

小さな村、**ガライ**(カスティジャ・イ・レオン州ソリア県)の郊外には、ローマ帝国軍の侵略に抵抗したケルティベリア人の歴史と神話が残された場所、ヌマンシア遺跡があります。

この地は2つの都市が折り重なった場所(ケルティベリア人の街とその上に建てられたローマ帝国の街)であることを、考古学者が明らかにしています。包囲された様子が再現された遺跡を散策してみましょう。都市設計を見れば、ヌマンシアの歴史がおのずと感じられるはずです。ヌマンシアの村を包囲していた7つのキャンプで、包囲がどのように進行していったかを理解するのに3Dが役に立ちます。

① [www.numanciasoria.es](http://www.numanciasoria.es)







▼ 古代ローマ円形劇場  
タラゴナ

## タラゴナ

ローマ時代にタラコと呼ばれていたカタルーニャ海岸にあるタラゴナでは、通りや広場、建物で、イベリア半島を支配していた古代ローマ帝国の非常に保存状態の良い遺跡を見学できます。タラゴナ考古学遺跡群は、2000年にユネスコの世界遺産に登録されました。旧市街地を囲む紀元前3世紀の**城壁**が有名です。その横には、**考古学散歩道**があり、ここを歩くと、この美しい地中海に開けた街の遠い過去へと思いを馳せることができます。

街の散策は、**タラゴナ歴史博物館**から始め、**ランブラ・ベジャ**を**ビア・アウグスタ**へ向かって進むのがおすすめです。街の標高が低い地区には、素晴らしい地中海の眺めを楽しめる、堂々とした**円形劇場**があり、1万4千人の観客を収容できます。

標高が高い地区に、**タラコの円形競技場**があります。観覧席を支えていた丸天井の一部は、多くの建物の柱として保存されており、**噴水広場**など街のシンボルともいえる場所につながっています。多くのテラスがあり、一日中いつ訪れても賑やかな場所です。**王の広場**に出ます。ここからは**ローマ時代のプレトリ塔**を望むことができ、地下通路はフォロと繋がっていました。

① [www.tarragonaturisme.cat](http://www.tarragonaturisme.cat)



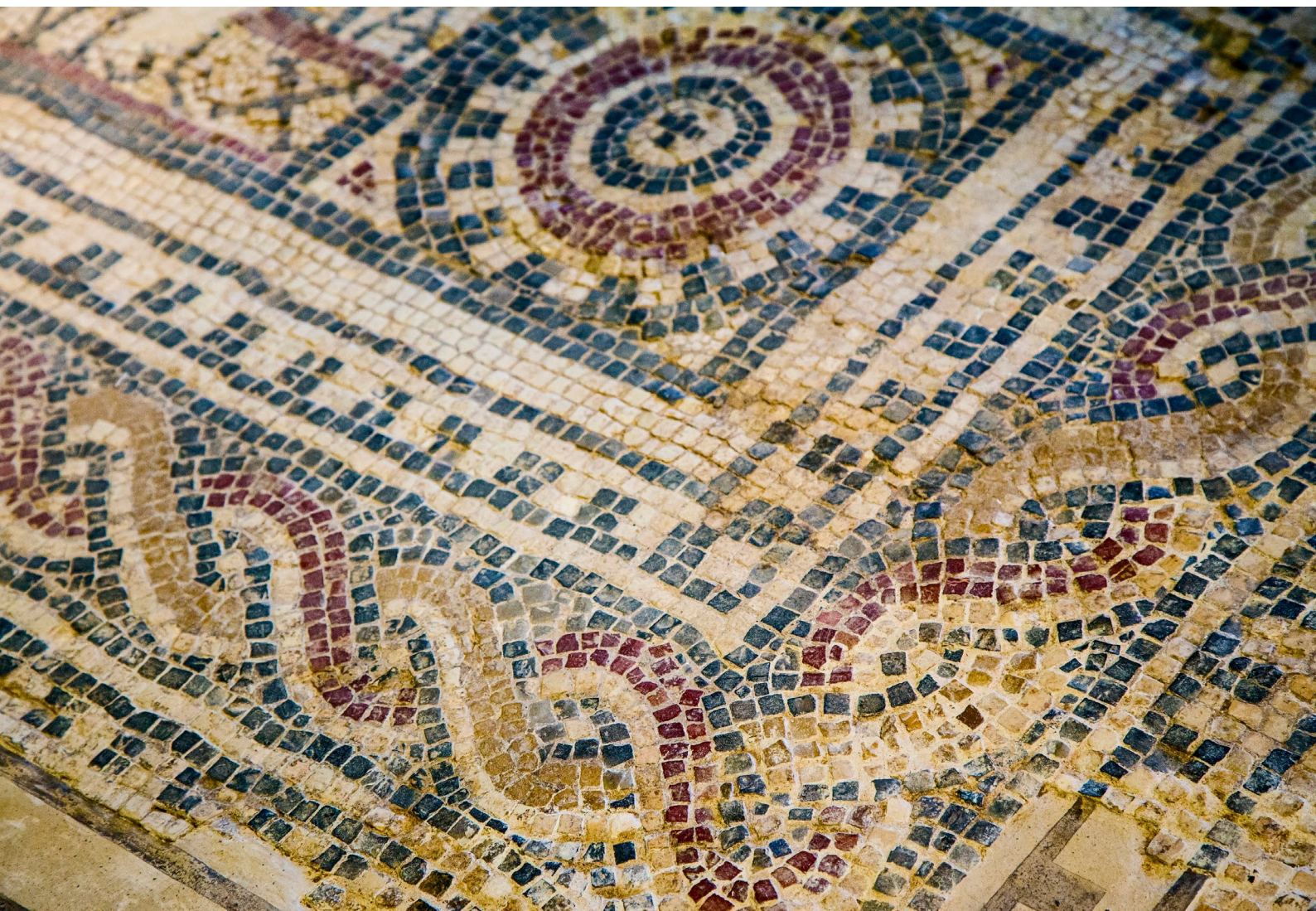


## アンプリアス

ローマ帝国は、フェニキア人、カルタゴ人、ギリシア人の集落や都市を含むヒスパニアの大部分を征服しました。ギリシア人は、紀元前6世紀以降、複数の植民地を建設しましたが、これには、コスタ・ブラバの中心にある**アンプリアス**（ヒローナ）も含まれます。そこでは、アゴラや宴会場の舗道の遺跡の他に、**レスカラビーチ**から数メートル離れた場所にある**アスクレピオ**や**セラピス**遺跡も散策することができます。

この都市は、ヒスパニアにおけるローマ帝国の最初の集落でもあったため、ギリシア人の遺跡がローマ時代の遺跡と共存するスペインで唯一の場所です。モノグラフ博物館を訪れ、3Dや模型、あらゆる種類の出土品や彫刻などの展示から、繁栄していた**エンポリウム**（交易港）がどのようなものであったかを感じてみましょう。ギリシアの医学の神、アスクレピオの彫刻があり、有名です。

▼ ロマネスク様式のモザイク  
エンプリエス遺跡、ヒローナ県







▲ イタリカ遺跡群  
サンティボンセ、セビージャ



▲ ローマ橋  
コルドバ

## 古代ローマ時代のアンダルシアルート

アンダルシアを旅することは、すなわちローマ時代のヒスパニアの足跡をたどることです。このルートは、**セビージャ県、カディス県、コルドバ県**（古代バエティカの州）の14の都市を通り、ヒスパニアで最も長いローマ時代の道路であったアウグスタ街道を經由してこの地域を横切ります。

バエティカの遺跡の中で、最も重要なものは、**イタリカ遺跡群**で、**サンティボンセ**（セビージャ県）にあります。この地はローマ帝国のアハドリアヌス、トラヤヌス、テオドシウス皇帝の生誕地でもあります。**カルモナ**（セビージャ県）には、ローマ時代の円形劇場、考古学博物館、スペイン最大の葬儀場で最良の状態で保存されている**ネクロポリス**があります。訪問の締めくくりには遺跡群の博物館を訪れるとよいでしょう。発掘された葬送品など、非常に価値のある作品を展示しています。

**コルドバ**では、コルドバ出身の著名な哲学者セネカにちなんで名づけられた**セネカのルート**をたどり、グアダルキビール川に架かる**ローマ橋**などの象徴的な場所を散策しましょう。この橋は、

街へ徒歩で入る時の入り口になる場所です。バエティカの首都であった街には、街を囲んでいた城壁の一部が素晴らしい状態で保存されています。往時のままに残された部分は、**ロンダ・デ・ロス・テハーレス**大通りおよび**パセオ・デ・ラ・ビクトリア**にあります。その近くにある**アルカサル・デ・ロス・レジェス・クリスティアーノス**も一見の価値があります。2、3世紀の巨大なモザイクが展示されています。

**考古学民族博物館**および**セルカディージャ**と**アテグア**の遺跡を訪問すると、帝国時代のコルドバのルートが完成します。

① [www.andalucia.org/es/rutas/ruta-betica-romana](http://www.andalucia.org/es/rutas/ruta-betica-romana)

## ルゴのローマ城壁

ガリシア州の都市ルゴはローマ人が多くの影響をもたらした街です。ここではユネスコの世界遺産に登録された唯一のローマ城壁を見学でき、3世紀から4世紀にかけて建築されてからの保存状態がとても良好なことも評価されています。



## 文化の交差点に原点を持つ祭り

スペインの習慣と伝統は、様々な文明に触れ、混ざり合うことで、独自の豊かさを享受しています。次に挙げる2つのお祭りが良い例でしょう。

5月のコルドバのパティオ祭り(2012年ユネスコの世界無形文化遺産に登録)の時期、このアンダルシアの街の旧市街の家々は花であふれます。コルドバの住宅には必ずパティオが付いていますが、これはローマ時代のヴィラが原点です。

毎年6月23日、聖フアンの前夜に、ピレネー山脈の夏至の火祭りが開催されます。これは元服、出生や浄化などを象徴する異教徒の慣習が元々の由来です。アラゴン州およびカタルーニャ州のピレネー山脈地域では、渓谷、山々、小さな村が、トーチや焚火でいっぱいになります。何世紀にもわたって世代から世代に伝わってきた幻想的な光景です。この祭りは、2015年に、ユネスコの世界無形文化遺産に登録されました。

▼ コルドバのパティオ祭り





## 西ゴート文化

ローマ帝国の統治後、5世紀から8世紀初頭まで、ヒスパニアを支配したのは西ゴート族で、特にスペインの中心部を統治していました。

▶ サン・ミジャン・デ・スソ修道院  
サン・ミジャン・デ・ラ・コゴージャ



スペインにおける西ゴート族の痕跡はあまりなく、さらに言えばスペイン全土に散らばっています。西ゴート王国の首都は**トレド**(カスティージャ・ラ・マンチャ)に置かれ、そこから、封建主義に繋がる制度を組織しました。

この町の旧市街地には、西ゴート族の文化のかけらがまだ残っています。例えば、**アルカンタラ橋**は、最も古いトレドへの入口です。ローマ帝政時代に架けられた橋ですが、その構造には、西ゴート族の装飾がされた大理石が入っています。この文明の遺跡が**聖ロマン教会**(13世紀)、**エル・サルバドール教会**(11世紀)、**トレドの大聖堂**の壁でも発見されました。トレド大聖堂は、西ゴート族のレカレド王による治世の間に奉献された寺院の上に建てられています。最後に、**西ゴート教会会議文化博物館**を訪れてみましょう。

タホ川沿い、**ソリタ・デ・ロス・カネス**(グアダラハラ)の小さな村の近くに、**レコポリス考古学公園**があり、ここでは、保存されている西ゴート族の街の中でも最も重要な遺跡があります。

スペインにおいて最も西ゴート族の文化遺産と言えるのは、礼拝堂や聖堂など宗教関連の建築でしょう。その例は、ベンタ・デ・バニョス(カスティージャ・イ・レオン州パレンシア)にある**サン・フアン・デ・バニョス教会**、エル・カンピージョ(カスティージャ・イ・レオン州サモラ)の**サン・ペドロ・デ・ラ・ナベ教会**、そして1997年にユネスコの世界遺産に登録された**サン・ミジャン・デ・ラ・コゴリャ**(ラ・リオハ)の**ユソ修道院**と**スソ修道院**は、カスティージャーノ語を発展させた地であると考えられています。





## 3つの文化が交差するスペイン

何世紀もの間、スペインは、文明の交差点でした。ここには、ユダヤ教徒、イスラム教徒、カトリック教徒が共存し、国中の建築、習慣、伝統にその足跡を残しています。



### アンダルス芸術

アル・アンダルス（スペインの領土で、中世にイスラム教徒の支配下に置かれていた場所）の芸術的な影響はとても大きく輝かしいものです。言語、文学、農業技術、手工芸において彼らの文化は不可欠であり、今日でもまだ使われているものもあります。

▲ パラシオ・デ・ラ・アルハフェリア  
サラゴサ

### サラゴサ（アラゴン州）

イスラム教徒が、アル・アンダルスを統治する都市サラクスタを設立しました。10世紀には王家の居住地であり、学びの場でもある**アリファレリア宮殿**を建設したのです。

宮殿にある、まるで宝石のような数々の部屋やパティオをぜひ探索してみま

しょう。宮殿で最古の部分である詩人の塔、美しいサンタ・イサベルのパティオ、そして印象的な王座の部屋など、驚くほどの出来栄です。アンダルシアの装飾的な豊かさは、14世紀までアラゴン王の王室でもあった黄金の部屋の素晴らしさにも垣間見ることができるでしょう。



## パルマ・デ・マヨルカ (バレアレス諸島)

マディナ・マヨルカは、ムラービト朝の重要な街でした。カトリック両王による島の再征服後に再建築された**アルムダイナの宮殿**に足を運んでみませんか。ここでは、マヨルカの首都であるこの街の市民の力の象徴です。また、見学時に、浴場、塔、アルコ・デ・ラ・ドラッサナのようなイスラム教時代の遺跡を見ることができます。

考古学の観点から**マヨルカ博物館**や**アラブ式風呂**を見てみれば、街の歴史を体感できます。現存する温浴室は、様々な丸い開口部を持つドームを支える12本の柱が特徴的です。

## トレド(カスティージャ・ラ・マンチャ州)

街全体が歴史博物館のような場所、それがトレドです。街に着いたとたん、曲がりくねった細い路地に魅了されることでしょう。ここは遠い昔、イスラム教徒が支配していた時代にメスキータや公共浴場、人で賑わうアラブの市場などがひしめきあっていたのです。

モサラベ(イスラム教徒の治下で混住していたキリスト教徒のこと)によって建設されたイスラム様式とローマ時代の遺跡が組あわされた**クリスト・デ・ラ・ルス・モスク**、**サン・セバスティアン教会**や**サンタ・エウラリア教会**を訪ねてみるのはいかがでしょうか。

この町のイスラム様式の遺産を巡るには、その他外せないスポットがあります。城壁で囲まれた地区への**扉**(ビサグラ、アルcantアラ、バルマルドン...)、古いモスクの上に建てられた**エル・サルバドール教会**、**テネリアス**と**カバリエル**の**アラブ式風呂**、**セニサル**の**イスラム式風呂**の遺跡です。



パルマ・デ・マヨルカの聖マリア大聖堂  
とラ・アルムダイナ宮殿  
マヨルカ



クリスト・デ・ラ・ルス回教寺院  
トレド



## イスラム教徒の遺産ルート

何世紀もの歴史を結ぶ7つのルートで、何世紀も過去をさかのぼってみませんか。コルドバのモスク(大聖堂)、メディナ・アサアラの考古学遺跡、セビージャのヒラルダの塔や、アルカラ・ラ・レアル(ハエン県)のアラブ文化の香り漂う旧市街などの重要な場所を見てみましょう。

セビーリャからグラナダまで、アルカラ・デ・グアダイラ、カルモナ、マルチェナ、エシハ、オスナのような村を通りながら、アルハンブラ物語の作者、ワシントン・アービングの足跡をたどりましょう。あるいはムラービトやムワッヒドの芸術的影響を追ってみるのもよいかもかもしれません。彼らは、アフリカ北部の

流浪民ベルベル人のグループで、アルヘシラスからスペインに入り、カディス県およびマラガ県の沿岸部や内陸部に勢力を拡大しました。おすすめの最後はアルプハラの村々と中世の城塞を巡るアルメリアから出発してグラナダにたどり着くルートです。ここではアラベスクの影響が深く残る道々や広場、そして街角などを散策できます。

グラナダには、以前要塞であり、そしてナスル朝のスルタンたちの住まいであったアルハンブラ宮殿があり、1984年には世界遺産に登録されました。3つの宮殿に囲まれた中庭はペルシャとイスラムの影響を受けており、地上の楽園を表現しています。噴水があるライオンの中庭は、宮殿の中で最も美しい場所の1つです。ヘネラリフェの魔法のような庭園を散歩してみましょう。愛の伝説の舞台となったスルタナの糸杉の中庭のように、インスピレーションが湧く場所がたくさんあるはずです。

① [www.alhambra-patronato.es](http://www.alhambra-patronato.es)

メディナ・アサアラ遺跡は、西洋における、ウマイヤ建築、芸術および文化の唯一の例であることから、ユネスコの世界遺産に認定されました。





## ムデハル様式の芸術

ムデハル様式(イスラム教徒とキリスト教徒の建築形式が融合した様式)の芸術はスペイン全土に広がりましたが、その中心地としてはアラゴン地方で、カラタユッド(サラゴサ県)の**聖マリア・ラ・マヨール修道院**や、テルエルの**聖マリア・デ・メディアビジャ大聖堂**が有名です。中でもテルエルは、アラゴン地方のムデハル芸術の中心です。

アンダルシアの芸術の影響は、キリスト教文化とイスラム文化が混ざり合った結果、純粋なスペインの芸術様式を生まみ出すまで進化しました。

カスティジャ・イ・レオン州のサアゲン(レオン県)およびクエジャル(セゴビア県)には、この地方で最も象徴的なムデハル様式の教会があります。クエジャルには、**ムデハル芸術センター**が**聖マルティン教会**にあります。

トレドを巡り、多彩な装飾を施した独自のスタイルをご覧ください。**サンティアゴ・デル・アラバル教会**はムデハル様式の大聖堂として知られています。また、同じ建築様式の**サント・トメ教会**には、世界的にその名が知られる画家**エル・グレコ**の「**オルガス伯の埋葬**」(El entierro del Señor de Orgaz)が所蔵されています。





様々な文化が混ざり合うスペイン



トゥロンとマサパン

## アル・アンダルスへの美食の旅

アラブの典型的な伝統や食事の中で、スペインの食文化に根付いているものがあります。

何世紀にもわたる歴史を持つ料理をお試してみたいはいかがでしょうか。例えば**ミガス**。この料理は進化し、今ではカトリック教徒が付け加えた食材(チョリソ、トシーノ、ロンガニサなど)が入っていますが、細かく砕いたパンをニンニクとオリーブオイルで調理するという原点は元のままです。

イスラムが原点であるスペインのデザートのひとつに**アロス・コン・レチェ**があります。何世紀もの時代を経て調理法は変わりましたが、基本の食材は昔から変わらず、牛乳、米、砂糖、シナモンです。

スペインのクリスマスの定番スイーツも、その原点は、イスラム帝国時代にさかのぼります。

ローストした皮なしアーモンドを砂糖やはちみつで固めたお菓子トゥロン(ヌガー)。そして、**マサパン**は、トレドの典型的なお菓子で、アーモンド、砂糖、卵をベースにしたものです。

## キリスト教徒

キリスト教徒によるレコンキスタは、スペインの芸術遺産の中でも最も際立つ様式をもたらしました。それが、ロマネスク様式です。10世紀の終わり頃、ピレネー山脈を經由して、フランスの宗教芸術スペインへとその影響力を伸ばしました。その後サンティアゴ巡礼路を經由してスペイン北部へも伝播、その後は13世紀まで半島の残りの部分へ広がりました。その足跡は素朴な教会に残っています。人里離れた自然の中や絵画のように美しい村や町に、そういった教会が見られます。

## アストゥリアス地方のプレ・ロマネスク様式、ロマネスク様式のルート

アストゥリアスのプレ・ロマネスク建築に見られるシンプルで整った様式はきっとあなたを魅了することでしょう。素晴らしい眺めの盆地や山々に囲まれている14の遺跡群は、1985年にユネスコの世界遺産に登録されました。

公国の優雅で堂々たる首都であるオビエド近辺には、精神世界へあなたを誘う場所があります。例えば、ヨーロッパで最も重要なプレ・ロマネスク様式の建造物の一つである**聖マリア・デル・ナ**





▲ サンタ・マリア・デル・ナランコ教会  
オビエド

ランコがそのひとつです。その近くのナランコ山の麓には、**サン・ミゲル・デ・リジョ**教会があります。

オビエドを散策すると、大聖堂があり、ユネスコの世界遺産に認定されている**カマラ・サンタ**を見学することが出来ます。ここでは、保存されている豪華な金の宝飾品や宝石を目にすることができます。

オビエドの街の中にも、美しい庭園で囲まれている**サン・フリアン・デ・ロス・プラドス**教会があります。アストゥリアス

地方のプレ・ロマネスク様式の建造物としては最古で最大のものです。9世紀に建てられたこの教会はローマ帝政時代の装飾要素がある装飾的な壁面が特徴です。1998年に世界遺産として認定されています。

最後に、ヴィリャビシオサなど、カンタブリアの沿岸地方の農村にある教会を見学しましょう。ここには、**サン・サルバドール・デ・バルデディオス**教会、**サン・フアン・デ・アマンディ**教会があります。





カタルーニャ国立美術館  
バルセロナ

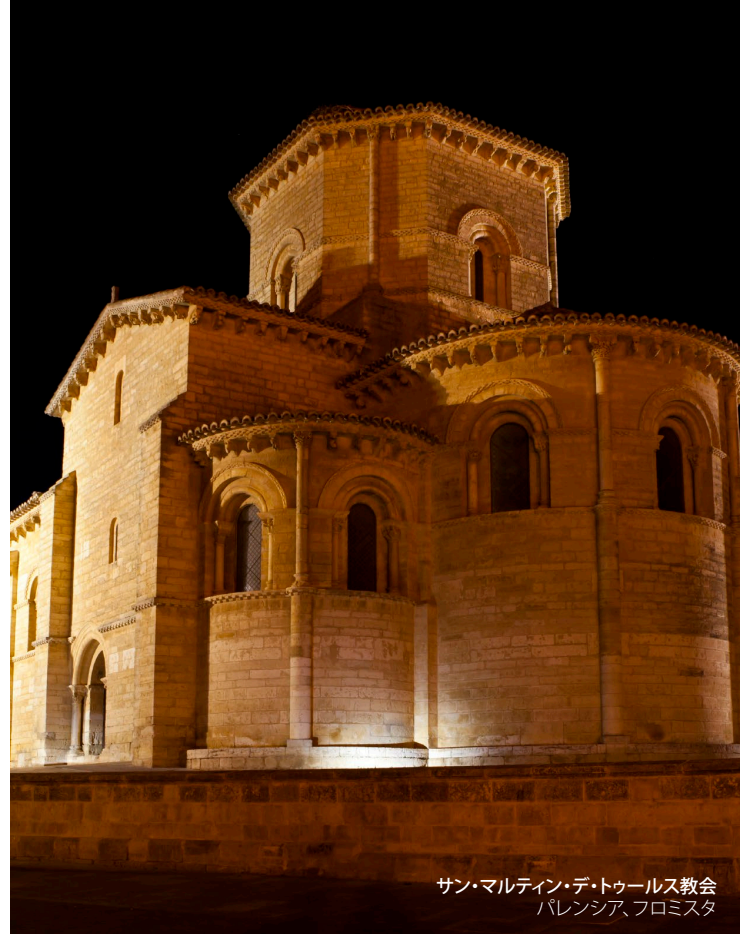
## ボイ渓谷の ロマネスク様式を巡るルート

リエイダ(カタルーニャ州)のピレネー山脈にあるボイ渓谷はまるでおとぎ話に登場する谷のような場所です。この谷に沿って進むと、8つの教会と、2000年にユネスコによって世界遺産に認定された初期ロマネスク様式の修道院があります。

世界遺産に認定された最大の理由は、その壁画の複製が豊富に所蔵されていたからです。これらの原画は、バルセロナのカタルーニャ州美術館(MNAC)に保管されています。

思わず息をのむのような自然に囲まれているエル・ポント・デ・スエルト、エリル・ラ・バル、ボイ、タウル村々を巡るルートは、五感で感じる旅になるでしょう。サンタ・エウラリア教会、エリル・ラ・バルのボイ渓谷ロマネスク・センターなどがおすすめです。またタウルにあるサンタ・マリア教会、サント・クリメント教会のように幾重にも重なった鐘楼が、この地域の特徴的な建築です。

① [www.centreromanic.com](http://www.centreromanic.com)



サン・マルティン・デ・トゥールス教会  
パレンシア、フロミスタ

## パレンシアのロマネスク・ルート

カスティジャ・イ・レオン州パレンシアの街周辺には、緑の谷、水量の豊かな川、中世の村々、百以上の教会があります。

フロミスタ、カミオン・デ・ロス・コンデスといった街を經由し、オヘダ峡谷やモンターニャ・パレンティナ村を抜けるのがこのルートです。フロミスタ聖マルティン・デ・トゥールス教会のように、イベリア半島で最も良い保存状態の教会が点在しています。

このルート上にある特徴的な場所をもうひとつ挙げると、アギラール・デ・カンポの街があります。聖マリア・ラ・レアル修道院には、ROMエキシビジョンセンターがあり、ここは、ロマネスク様式の発展した時代の歴史的背景や中世の日常生活について知るのに理想的な場所です。

以上、おすすめをかいつまんでご紹介しましたが、このルートには無限の可能性が広がっています。



## サモラとトロのルート

ドゥエロ川のほとりの2つの街サモラとトロはカスティージャ・イ・レオン州にあり、ロマネスク様式の数々の建築が遺されています。

サモラは、スペイン全土で最もロマネスク様式の建造物が街の中心に集まっている街です。エル・サルバドール大聖堂には、大きな塔と石の鱗が並んだガロナダ・ドームがあり、サモラで見逃せない観光スポットです。

街中にある11世紀、12世紀の教会も必見です。例えば、街で最古のロマネスク

様式の教会であると言われるサン・クラウディオ・デ・オリバレス教会、サン・シピリアノ教会、サン・フアン・デ・プエルタ・ヌエバ教会やサンタ・マリア・ラ・ヌエバ教会などがあります。

サモラから40km圏内にトロがあり、ここではサンタ・マリア参事会教会を見学することができます。ランタン型の塔とうねりのあるドームが特徴的なこの教会は、「陛下の柱廊」と呼ばれるゴシック様式の柱廊や貴重な彫刻などでも有名です。





## セファルディム文化

スペインにおけるユダヤ文化は、数千年の歴史があります。中世の時代に、ユダヤ人は豊かなコミュニティを造り上げました。現在スペインのユダヤ人街ネットワークを訪問すると、往時のユダヤ人街の名残を感じられるかもしれません。シナゴグ（ユダヤ教の会堂）や遺跡を見学してみたいはいかがでしょうか。

▼ ユダヤ人街  
コルドバ



### コルドバ

この美しいアンダルシアの街とその**巨大な文化遺産、建造物**は一見の価値があります。

コルドバが街として発展し始めた頃から、ユダヤ人はこの地に居を構えていました。白壁の家々が立ち並ぶ**ユダヤ人街**を訪れてみましょう。その狭い石畳の小道を抜けるのはわくわくするような体験です。コルドバの**シナゴグ**はアンダルシア地方で唯一のユダヤ教の会堂であり、スペインで最も良い状態で保存されているもののひとつです。



イスラム起源の要塞である**カラオラの塔**にある**アル・アンダルス博物館**へも足を運んでみましょう。ここには当時最も重要な哲学者であったマイモニデス専用の部屋がありました。博物館では、シナゴグで行われていた儀式の紹介もしています。

### トレド

トレドを訪れると、ここが**3つの文化が融合する街**であることを実感できます。何世紀にもわたり、キリスト教徒、ユダヤ人、イスラム教徒が共存する平和な全盛時代が続きました。この時代トレドは、カスティージャ王国の首都と王国議会の本部として機能します。また、現在は研究センターとなっている、かの有名な**トレド翻訳学校**が設立されたのもこの頃です。





▲ サンタ・マリア・ラ・ブランカユダヤ教会  
トレド

トレドのヘブライの痕跡を巡るルートは、**聖マリア・ラ・ブランカ教会**から始まります。外装は簡素ですが、中に入ると装飾の壮大さと輝きに圧倒されます。この対照的な外観・内観は、トレド式ムデハル芸術の典型です。

**シナゴーガ・デ・トランシト**は、現在**セファルディム博物館**となっています。碑文で豊かに装飾された壁だけでなく、芸術品や、ヘブライの宗教儀式で使用される道具類を見ることができます。

### カセレス

カセレスでは、旧ユダヤ人街とその狭い通りを散歩してみましょう。上品な建築が特徴のこの街はエクストレマドゥーラ州にあり、1986年にユネスコの世界遺産に認定されました。

散策は、**バルアルテ・デ・ロス・ポソス・ツーリズム・センター**なしには語れませ

ん。**センター**は12世紀の防衛塔の中にあり、最上階からは街に立ち並ぶモニュメントを一望できる最高の眺望を楽しめます。このセンター自体がムワッヒド時代の壮大な要塞の典型で、広々と見渡せる庭と塔があります。

**ラ・イスラ宮殿**は、かつて**新ユダヤ人街のシナゴーグ**があった場所に、16世紀に建造されています。中庭には、複数のダビデの星とヘブライ語で書かれた碑文のある柱があります。

エクストレマドゥーラ州で有名なもうひとつのユダヤ人街には、細長く急坂な道やアドベ壁とクリ材の家々が連なるエルベスの町があります。

### エステージャ-リサラ(ナバーラ県)

壮大な**サラタンボールとベルメチェール城**の間から、ユダヤ人街に入りましょう。設立から13世紀の終わりまで、この街が商業的および文化的に繁栄した偉大な時代の象徴です。この過去の遺産として、サン・ニコラス通り、ルア通り、クルティドーレス通りの建物には現在でもヘブライ語が残っています。

▼ エステージャ-リサラ  
ナバーラ





## リバダビア

リバダビアは大西洋沿岸部にある美しい場所のひとつです。ガリシア州オウレンセ県のこの村は、リベイロワインの中心地で、当時ワイン醸造に使われたワインセラーを持つ住宅が多く保存されています。

ユダヤ人街のメレジェス・カウラ通りに入ってみましょう。通りが交差する場所の中心にあります。セファルディムの手工芸品はお土産に最適です。マヨール広場にあるリバダビア伯爵邸には、ガリシア地方のユダヤ関連情報センターがあります。数世紀にわたるガリシア地方におけるセファルディムの歴史、習慣について、ここで学ぶことができます。







▲ リバダイバ城  
オウレンセ



魚のフライ

### セファルディム的美食への旅

セファルディム料理はその根底において、現在地中海料理として知られているものと密接に関連しています。スペイン系ユダヤ人の影響でオリーブオイルが一般的に使われるようになりました。

アンダルシアでは、ビーチの近くのチリンギートと呼ばれる海沿いのレストランやタパス・バルで、魚のフライはなくてはならないものです。これは、衣をつけて揚げた魚のフライ(カタクチイワシ、イコクエイラクブカ、メダマヒメジ、シラウオなど)で、元々はセファルディム系の人々が、色々なハーブを混ぜたビネグレットソースを添えて出していたものです。

スペイン各地で典型的な料理として供されるコシードまたはプチェロも、ヘブライを原点としています。ユダヤ人は、サバト(土曜日、聖なる安息日)に料理をすることを禁止されており、そのため、何日も食べることが出来る煮込み料理をよく作りました。乾燥豆や新鮮な野菜を食材として、ひよこ豆、野菜、羊肉の煮込み料理であるアダフィナなどの料理があります。

① [www.spain.info](http://www.spain.info)





 @spain

 @spain

 Spain.info

 /spain